せんだぎ800号によせて

創立95周年を迎えられるひとつの節目の年に機関誌「せんだぎ」が、通巻800号を迎えられること、心からお慶び申し上げます。

ひとことで800号と申しましたが、生活様式やデジタル化が進み広報誌が姿を消すなか、本紙を橋渡しに、地域のお客様、金庫、職員の3者が相互に支え合い、発展と幸せを築く、「三者共栄」の経営理念のもと、「信頼で地域とつながる」をスローガンに掲げられ、地域のための金融機関としての役割を果たし、愛されてきた賜物と存じます。

昨今の事業者を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、厳しいものがありますが、個人消費の回復に向けた動き、脱炭素社会の構築やデジタルトランスフォーメーションの加速などにより、新たなビジネスモデルの出現も数多く見られ、この機会をチャンスと捉え、事業再構築補助金を活用し、新分野・新事業への挑戦、販路拡大に取り組む府内事業者に対し、「地域密着による課題解決No.1」の信用金庫として400者の新事業構築を支援いただきました。

これら再構築に要する資金繰りや、経営に影響を受ける事業者に対し、大阪府の「新型コロナウイルス感染症関連制度融資」との迅速な連携によりトップクラスの資金繰りを支援いただき、御礼申し上げます。

貴金庫におかれましては、大阪府と「中小企業振興に関する連携協定」を締結し、府内中小事業者に対し、府の様々な支援事業の橋渡しの役割を担っていただいています。

府の取り組みとタイアップした定期積金では、「三者共栄」の経営理念に基づいたもので、毎年「大阪ハートフル基金」、「子ども輝く未来基金」、「〝みどりの風の道〟形成事業」への寄附をいただいています。また、新事業創出支援では、未来社会のヘルスケアビジネスをテーマとした健康産業有望プラン発掘コンテストに対する特別協賛など、地域経済の活性化に向けご尽力をいただき重ねて感謝申し上げます。

本年は、十干十二支の「壬寅」です。寅は十二支の三番目に当たり、「成長」や「始まり」の年と言われています。皆さまが新たな成長と飛躍の年となりますようお祈りいたしますとともに、本紙「せんだぎ」が印刷物の強みを活かし、いつまでも手元に残り続ける愛着のある、一層魅力ある機関誌として、より多くの読者に愛されますよう期待申し上げます。

終わりに、大阪シティ信用金庫の今後ますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和四年一月

大阪府知事

吉村 洋文

せんだぎ 800th SPECIAL ISSUE

せんだぎ創刊800号記念特集

職員が選ぶ

大阪おすすめスポットランキング

「せんだぎ」では、特集「おおさか文化遺産めぐり」で、府内の名所や施設を毎月ご紹介しています。
800号を記念して、701号以降にご紹介した92カ所の中から、
当金庫役職員が選んだ「大阪のおすすめスポット」をランキング形式でご紹介します。

見どころがいっぱい！

OSAKA MY FAVORITE SPOT

第1位 大阪城天守閣

225票（2019年11月号）

- 「高層ビルの合間に佇む大阪のシンボル」
- 「天守閣からの景色はもちろん、秀吉自筆の書などの展示物も見ごたえあり」
- 「大阪城の卒業記念に行ったら登閣証明書がもらえて記念になりました」

第5位 住吉大社

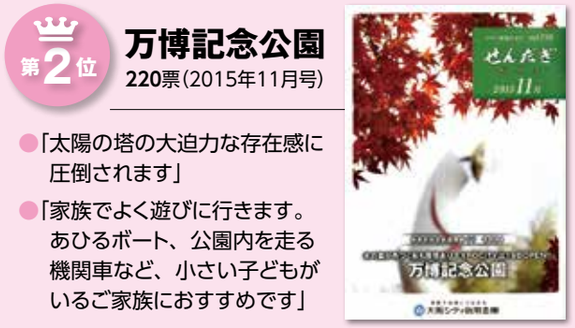
131票（2018年1月号）

- 「住吉大社と言えば太鼓橋」
- 「昔、近くに住んでいた頃、毎年初詣に行った懐かしい場所です」

第6位 梅田スカイビル

127票（2013年12月号）

- 「ここのクリスマスマーケットで飾られる大きなツリーを毎年家族で見に行っています」



第2位 万博記念公園

220票（2015年11月号）

- 「太陽の塔の大迫力な存在感に圧倒されます」
- 「家族でよく遊びに行きます。あひるボート、公園内を走る機関車など、小さい子どもがいるご家族におすすめです」

第7位 京セラドーム大阪

122票（2016年3月号）

- 「野球とコンサートの楽しい思い出がいっぱい。ドーム内にある当金庫の看板も誇らしい」

第8位 玉串川の桜並木

112票（2017年4月号）

- 「入庫時に近隣店舗に配属となり、満開の桜並木を同僚と楽しんだことは懐かしい思い出です」

第3位 あべのハルカス

193票（2014年3月号）

- 「存在感は圧倒的。六甲山山頂からも見えます！」
- 「展望台から見る夜景は圧巻。ここで妻にプロポーズして無事入籍!!」

第9位 石切劔箭神社

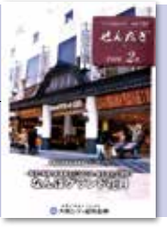
102票（2016年1月号）

- 「昔は子ども、今は孫のお宮参りや七五三参りと思い出深い場所です」

第4位 天神祭奉納花火

141票（2015年7月号）

- 「夏の到来を告げる風物詩」
- 「大阪といえば天神祭！」



第10位 なんばグランド花月

97票（2016年2月号）

- 「大阪が誇るお笑いの殿堂、心をリフレッシュしたいときは足を運ぶことをおすすめします」

おおさか文化遺産めぐり その168

特集

浪華八百八橋（なにわはっぴゃくやばし）

水都大阪の歴史・経済を支え人と街とを繋いできた多くの橋

大阪は、淀川や大和川の河口部に発達してきました。「難波津」と呼ばれた古代から、わが国の海外交易の拠点でもあり、豊臣・徳川の時代には縦横に走る河川と運河によって水運が発達し、商人の町として栄えたのです。

そんな商都・大阪には江戸時代に多くの橋が架けられたことで、八百八橋（はっぴゃくやばし）といわれています。大阪の暮らしや街の発展を支えた数々の橋は時代とともにその姿を変えながらも、歴史を物語り、刻一刻四季折々にうつろう趣で人々を魅了し、現在の街に脈々と息づいています。

天神橋

「浪華の三大橋」と呼び親しまれてきた天満橋と同様に、淀川大洪水の被害を受けて1888（明治21）年に木橋から「洪水に強い橋」とされる鉄橋に架け替えられました。現在の橋は1934（昭和9）年に完成した雄大なアーチ橋で、橋の北詰に先代の橋名飾板が飾られています。近年整備が進み、憩いの地として多くの人が訪れる中之島公園を跨ぐ、市民の日常に寄り添う人気の散策コースとして親しまれています。

難波橋

「ライオン橋」の愛称でも知られる、大阪を代表する橋のひとつで、欄干を彩る華やかな照明灯や中之島公園へ降りる石造りの階段が印象的です。明治時代は木橋でしたが、市電事業にともなって1915（大正4）年に架け替えられました。その後、1975（昭和50）年に架け替えられた現在の綱桁は、従前のアーチ形状を踏襲したデザインとなっています。

本町橋

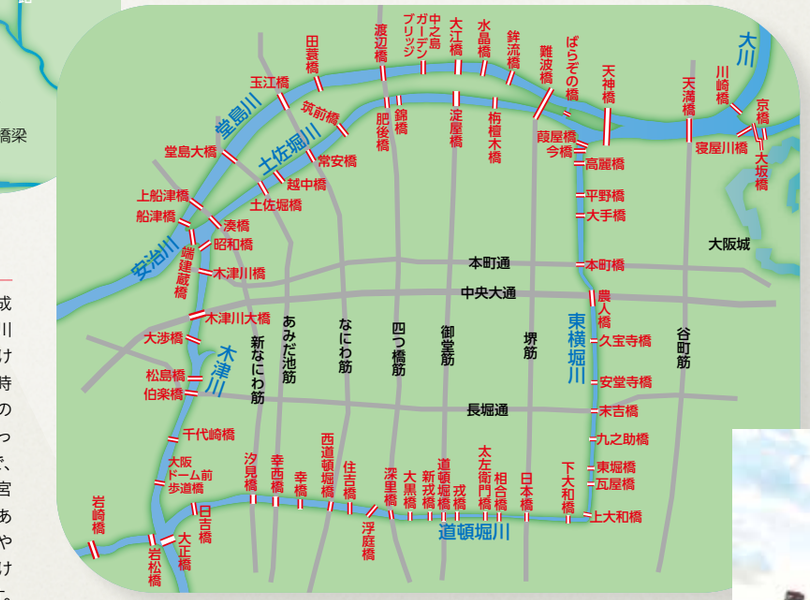
現役の橋としては大阪市内最古で、初代は豊臣秀吉が大阪城築城の際、東横堀川を外濠として開削したときに架けられたと考察されます。「浪華の三大橋」天満橋・天神橋・難波橋と並び、江戸時代には幕府直轄管理の公儀橋のひとつでした。現在の橋は本町通が市電道路として拡幅された1913（大正2）年に架け替えられたもので、3連の鋼アーチをルネサンス風デザインの石造りの橋脚が支えています。2012（平成24）年に大阪市指定文化財に指定されました。

戎橋

1615（元和元）年に完成したと伝えられる道頓堀川の開削とほぼ同時期に架けられたと考えられ、江戸時代、毎年の十日戎に市中の人々がこの橋を渡ってえべっさん（今宮戎神社）に詣で、その群衆で橋上はかなりの賑わいを見せたといいます。橋の名も、今宮戎神社への参詣の道筋に架けられた橋であることに由来するとの説があります。また、その昔は橋の南側に操り芝居の小屋があり、操橋（あやつりばし）と呼ばれていたようです。円形を基本とした橋上広場を設け劇場性を表現した現在の橋は、2007（平成19）年に完成したものです。

淀屋橋

江戸時代、橋の南西に居を構えていた豪商「淀屋」が米市の利便を良くするために架橋したのがはじまりだとされ、橋の名もこれに由来します。大阪市電堺筋線が開通する前の年の1911（明治44）年に鋼板桁橋に架け替えられ、1935（昭和10）年に完成した現在の鉄筋コンクリート造り3径間のアーチ橋のデザインは一般公募によるもので、2008（平成20）年には重要文化財に指定されています。



天満橋

江戸時代以降、商人のまち・大阪にとって最も重要で、人々の生活に寄り添い、街の発展に貢献してきた橋です。天神橋・難波橋と並んで、浪華の三大橋と呼ばれ親しまれてきました。1885（明治18）年の淀川大洪水のあと、それまでの木橋から鉄橋に架け替えられ、現在の橋は1935（昭和10）年に完成した鋼桁橋です。大阪夏の風物詩である「天神祭」の時期になると、欄干に当金庫の奉納提灯が掲げられることでもおなじみです。

桜宮橋

昭和初期に架けられた名橋のひとつで、北区と都島区を結ぶ3ヒンジ鋼アーチ橋。1930（昭和5）年の完成当時は西日本最大級のアーチ橋として注目されました。中之島大川筋のシンボル的存在となっている橋で、橋全体がシルバーカラーに塗られていることから、大阪の人々の多くにとっては、「銀橋」の愛称が馴染み深いものとなっているようです。